

1. 遺跡名 門沢橋跡堀遺跡
(かどさわばしあとぼり)

2. 所在地 海老名市門沢橋

3. 時代 中世・近世

4. 調査概要

本調査は、日本道路公団からの委託による第二東名高速道路建設事業の事前調査として、2004年10月から実施しております。

この遺跡は相模川の左岸、標高14m程の自然堤防上に位置しています。

発見されている遺構は、中世・近世の掘立柱建物址・竪穴状遺構・溝状遺構・土坑などです。中でも写真の1号掘立柱建物址は側柱の内部に柱の沈下を防ぐ目的で、柱の下に据えられる木製の礎盤を持っています。柱穴内から遺物が出土していませんが、周辺の遺構からの出土遺物により中世のものであると考えられます。

配石遺構は1辺が4m程で、中央に径80cm、深さ20cmほどの土坑状の掘り込みを持っています。礫の間などからは焼けた骨片が出土しています。時期は、出土したかわらけから15～16世紀であるものと考えられます。遺構の約半分は、調査区外に存在しているものと考えられます。遺物は、量は少ないものの青磁・国産陶磁器・かわらけ・渡来銭・鉄製品・銅製品など多様なものが出土しています。

[12月10日\(土\)に現地見学会を実施しました。](#)



遺跡の位置



遺跡遠景



中世の1号掘立柱建物址



中世の配石遺構